

矢作川流域圏懇談会通信

R7 川部会編 vol.1



発行日：令和7年8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第67回川部会WGを開催しました！

第67回川部会WGは、今期前半（令和6年度）の活動を振り返るとともに、今後の活動計画・目標について話し合いました。また、矢作川流域の生態系や環境の変化について、話し合いました。

日時：令和7年6月19日（木）14:00～16:00

会議場所：豊田市 崇化館交流館（視聴覚室）

参加者：19名（内オンライン参加3名） ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 矢作川流域圏懇談会について

今期より、川部会座長が中村先生となりました。中村先生は、名古屋大学で「水の視点から国内外の都市や地域をフィールドに持続可能な国土形成に関する教育・研究」を行っています。

今期、新座長として1回目の川部会であることから、矢作川流域圏懇談会の目的、運営方針、昨期の活動実績・今期の活動目標等を確認しました。

2. 今期前半（令和6年度）の活動成果と今後の活動目標

今期前半（令和6年度）に実施した活動としては、川部会が取り扱う3つのテーマ「①河道に関する課題（本川・支川）、②流域に関する課題、③交流・共有に関する課題」に関して今後の活動計画や方針、課題等の意見交換を行いました。なお、河道に関する課題（本川・支川）に関し、矢作川水系総合土砂管理事業の土砂供給実験箇所や置土の現場視察を行いました。また、それらに伴う意見交換の実施状況を報告しました。

また、日本を取り巻くエネルギー資源の現状、矢作川水系の水力発電等について中部電力株式会社から情報を共有していただき、意見交換を行いました。

今期の活動目標として、今期前半の活動目標と同様に3つのテーマについて、「山・海・まちをつなぐプラットフォームとしての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する」を目標に活動を進めていきます。

3. 情報共有・意見交換

■川部会における課題と方向性

河川整備計画策定から15年が経過し、社会変化に伴う課題の共有の必要性が指摘されました。その中で、流域委員会で挙げられている課題を川部会で共有することで、現状把握と具体的な改善策の検討が進むと意見が出ました。また、今一度、流域全体での具体的な目標を掲げた方が良いという意見も出ました。

川部会活動の活性化のため、WG開催の回数増加や現場視察による具体的な課題抽出、市民部会との連携による水遊びイベント開催などが提案されました。さらに、若い世代の川部会の参加促進や世代交代を踏まえた活動の継続性が問題視されました。

■矢作川の生態系・環境

矢作川は、生物多様性の観点から、本川と支川での現状が異なることが指摘されました。特に、本川の生態系や親水性について、過去の状況を踏まえて再考する必要性が提起されました。当時の人々の意識や環境の状態を知ることは、矢作川の未来像を考える上で重要であるとの意見が出されました。

■今後の予定

事務局より、今期後半の活動計画について説明しました。令和7年10月頃に予定している次回WGで、今回出た意見について、具体化していく予定です。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●川部会に関する課題点や意見

- ・カーボンニュートラルの内容がなぜ山部会との合同部会となっているのか。(中村座長)
 - ▶ 愛知県の矢作川・豊川では、カーボンニュートラルの取り組みをしている背景があり、山部会において、山部会の森林組合がJクレジット制度を活用しているためである。(事務局)
 - ▶ 多摩川との交流をしている中で、流域総合水管理の先進事例として矢作川が挙げられている中で、カーボンニュートラルが記載されており、興味をもったためである。(近藤)
- ・河川整備に関する課題点等の内容は、河川管理者の中で共有されているのか。流域委員会で共有されている課題を、この懇談会で共有しないと何が問題となっているのか分からないのではないか。(境)
 - ▶ 整備計画策定時から矢作川流域や川の課題は変化していることもあり、流域委員会の開催結果などの昨今の河川に関する現状や課題については、本懇談会で報告できておらず、共有されていないことは課題として感じている。(事務局)
 - ▶ 整備計画策定から15年経過している中で、社会が大幅に変化しているため、整備計画に書かれていること以外にもしっかりと課題を共有し、川部会以外にも交流を広げていくべきではないか。(中村座長)
- ・川部会のWGが実質1回しかなく、活動計画を作る中で不十分に感じる。(光岡)
 - ▶ 今一度、流域全体での具体的なビジョンを作ることは重要である。(中村座長)
- ・矢作川に関する事業を実施した中で、効果があった取り組みや工夫した点を実際に現地に行き、皆に解説したい。(山本)
- ・四季を通じて、大人も子供楽しめる水遊びを川部会と市民部会で何か取り組みたい。(鈴木)
- ・若い方にもこの川部会の会議に出てもらいたい。(中村座長)
 - ▶ 現場での世代交代は進んでいるので、そのような人々を巻き込んで活動していくことが今後重要と思う。(近藤)
- ・長期的に計画を立てている河川整備計画のその時々での課題点や進捗状況をこの場で共有したい。(北井)

●矢作川の生態系・河川環境について

- ・矢作川の本川では、生物多様性が失われている。ただし、支川は生物多様性が残っている。本川としての生態系や親水性について考えてもよいのではないかと。(松沢)
 - ▶ 元々の矢作川の状態と当時の人々がどのように感じていたか気になる。支川は今も生態系が保たれていることを知った。(中村座長)
 - ▶ 当時の写真は、矢作川研究所が集めている。(近藤)
 - ▶ 当時は、白黒写真なので、分かりづらいのが課題である。(事務局)
- ・矢作川としてあるべき未来の姿を考えていく必要があると思う。そのきっかけとして、過去の矢作川の状況を整理するのは重要と考える。(中村座長)
- ・山、川、海の物質的な流れが今後どのように変わっていくか関心を持っている。(吉川)

●整備計画更新とマスタープランについて

- ・気候変動を考慮した基本方針の見直しを矢作川では行っているか。(中村座長)
 - ▶ 今後検討を行っていくことになるが、現時点ではお示しできる内容はない。(事務局)
 - ▶ 整備計画のフォローアップとなるような懇談会としたい。(境)
 - ▶ 安城市において、農地等の浸水被害の対策として、雨水マスタープランの見直し業務が始まった。(有我)



◆お問合せ◆

矢作川流域懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

